

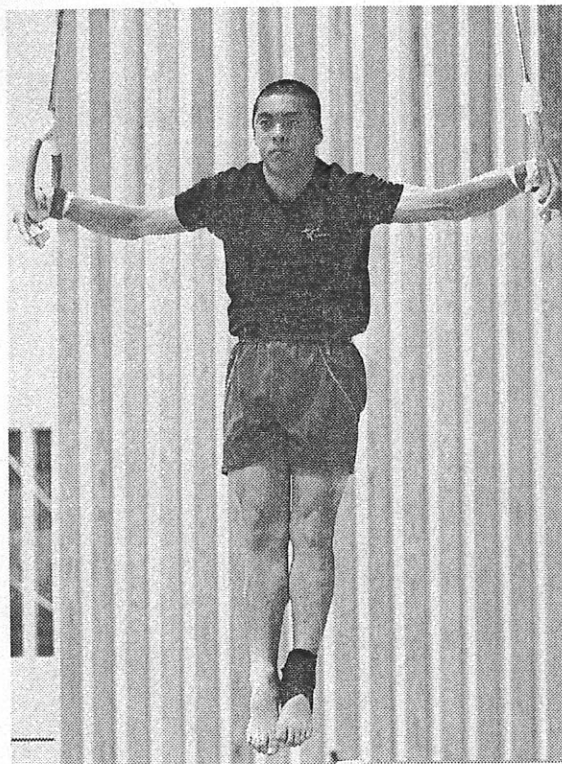
# 目指すはつり輪で「金」

## 大けが乗り越え楠川君

田工  
体操部

田辺工業高校(田辺市あけぼの)体操部2年、楠川雄大君は、中学時代に全国大会で入賞するほどの実績を挙げながら足首の骨折でこの1年公式戦にはほとんど出場していない。周囲の励ましに感謝しながら再起を期して練習に励んでいる。

目指すつり輪日本一を  
楠川雄大君  
(田辺工業高校で)



楠川君は、白浜第二小学校の1年生から体操を始めた。小学校高学年になり頭角を現し、明洋中(田辺市)では主力選手として3年の夏の全国大会で団体3位に貢献。跳馬では優勝して個人総合10位に入賞し、高校での活躍が期待されていた。

しかし、中学3年の12月にゆかの高難度の技を練習中、着地でミスをして左足首を骨折した。全治3カ月のけがを負い、手術して治りかけた翌年3月、再び同じ箇所を骨折。田辺工業高校の入学後も

松葉づえの生活で、他の部員の練習を見守る日々が続いた。

楠川君は「あのときは気持ち沈んで悔しい思いもあったが、顧問の柴田先生から

## 「救命胴衣の着用を」

### 紀南地区海上安対協 啓発タオル千本作製

紀南地区海上安全対策協議会(木下吉雄会長)は、春の行楽シーズンを前にライフジャケット(救命胴衣)の着用を啓発タオルは、田辺海上保安部の協力を得て千本作製した。過去5年間はミニタオル

「上半身を鍛えて来年はつり輪で日本一にならないか」と励まされた。今できることを精いっぱいして試合ではみんなを応援しようと思いを切り替えた」と振り返る。

松葉づえが要らなくなる8月ごろまで、上半身の筋力トレーニングを中心に鍛え、徐々に競技の練習に入った。12月に足首のポルトを抜き、現在は7割ほど回復しているという。6月の高校総体の県予選に照準を合わせ、足の負担がかかる跳馬やゆかはこれから本格的な練習に入る。

柴田達也顧問は「マイナスをプラスに変えようと頑張った結果、心身ともに成長した。けがをしたことで逆に得たものは大きい。実力的には国内トップクラスの選手。高校総体に出場し、特に力を入れてきたつり輪で優勝してほしい」と期待を寄せる。

楠川君は「先生や家族、仲間を支えてもらい、感謝している。つり輪で優勝して応えたい」と意欲を燃やしている。

だったが、今回は縦35センチ、横86センチの大きめのサイズにし、弁慶の格好をした海上保安庁のマスコットキャラクター「うみまる」を描いた。

協議会の事務局がある同保安部では、釣りや遊漁船などの海洋レジャーに出掛ける時にタオルを持参してもらい、救命胴衣の着用向上につながることを期待している。連